

平成 28 年度 産学連携交流事業 実施報告

地元および周辺地域企業と有明高専との間を取り持ち、地域企業の活性化を図るために、本振興会は講演会、工場見学、シーズ発表会等を企画・実施してきた。また、平成 26 年度にサテライトオフィスを開設し、有明高専の一層の開放と情報収集および発信能力の向上を図っている。

1. 分科会

振興会企業と有明高専の教職員と地域企業の技術者との交流を深め、共同研究や技術・製品開発を活性化することを目的に分科会を設立する。

企業幹事：吉海 寛人（株式会社三井三池製作所）

高専幹事：松野 哲也（電子情報工学科）

(A) Ruby 研究会の立ち上げと福岡県内他地域との連携を強化

(B) 技術士会との連携について検討

を通して分科会の課題を検討することにした。

2. 事業の開催

振興会会員企業に有明高専が所有する設備を会員企業に紹介して、両者間を取り持ち、技術相談から共同研究へ発展させる必要がある。これらの基盤となるシーズやニーズなどについて情報を共有し、事業展開への機会づくりを図るために、以下の事業を実施した。

(1) 特別講演（3 回）

- ・シリコンバレーに学ぶ起業家精神～イノベーション噴出の仕組み～

10 月 30 日本校視聴覚室にて、Silicon Valley-Japan Business Consulting CEO マーク加藤氏による特別講演『シリコンバレーに学ぶ起業家精神～イノベーション噴出の仕組み～』が開催され、本校職員と学生及び企業より 29 名参加。

- ・本気で鍛える実践英語コミュニケーション～効果的なプレゼンのための音声学習～

12 月 18 日本校視聴覚室にて、Q-Leap 株式会社代表取締役 浅場眞紀子氏と Q-Leap 株式会社取締役 愛場吉子氏による『本気で鍛える実践英語コミュニケーション～効果的なプレゼンのための音声学習～』が開催され、本校職員及び企業より 17 名参加。

- ・環境ホルモンの最近の動向と環境依存性性分化について

2 月 28 日本校視聴覚室にて、横浜市立大学・客員教授 井口泰泉氏による『環境ホルモンの最近の動向と環境依存性性分化について』が開催され、本校職員と学生及び企業より 38 名参加。

(2) 絶対達成マネジメント講座

本校専攻科講義室にて、株式会社 ASK プロジェクト代表取締役 橋爪康知氏による『絶対達成マネジメント講座』が、6 回にわたって開催。

(第 1 回) 5 月 20 日

(第 2 回) 6 月 24 日

(第 3 回) 7 月 22 日

(第 4 回) 8 月 19 日

(第 5 回) 9 月 9 日

(第 6 回) 10 月 14 日

(3) 有明高専シーズデータベースの整備

平成 28 年度も引き続き、有明高専シーズデータベース（高専データベースと様式を統一したもの）を、Web ページに掲載した。

(4) サテライトオフィス事業

大牟田市・大牟田市地域活性化センター・有明高専コーディネータによる定例情報交換会を開催した。九州弁理士会との協定による有明高専担当弁理士による知財相談会を開催した。

3. 有明高専主催・共催行事支援

有明高専が主催または共催する事業は多数あるが、その中で振興会会員企業と密接に関連した下記の事業を行った。

(1) 有明高専オープンカレッジとの共催イベント

有明高専で 8 月 20 日（土）、21 日（日）にオープンカレッジ 2016 が開催され、各学科企画のものづくり体験教室や学科紹介、中 3 向け進路相談、女子学生によるイベント、小中学生によるロボコン Jr リーグ等が開催された。昨年よりも多い 1,332 名という来場者があり、地域の方々、周辺の小中学生のみならず、遠方からもご来場いただいた。

ここで、振興会会員企業紹介を実施し、多くの来場者があった。

(2) 第 3 回九州沖縄地区高専・日本弁理士会九州支部交流会

11 月 30 日沖縄県那覇市にて、『第 3 回九州沖縄地区高専・日本弁理士会九州支部交流会』が開催された。上甲コーディネーターとセンター長富永が参加し、「海洋資源開発」、「ドローン」に関する技術動向の情報収集および意見交換が行われた。

(3) 第 14 回 おおむた産学官連環交流会

基礎研究の成果をいち早く出口につなげる産学連携の重要性が増す中、さらに産学官のつながりを深め、広く大牟田地域の技術革新を進展するために産学官連環交流会が開催され、多数の参加者があった。本校創造工学科教授 富永伸明が「学のシーズによる産学官連携～電界パルスエレクトロポレーターの開発～」に関する発表を行った。多数の参加者により有意義な交流が見られ、盛況のうちに終えることができた。

日時：平成 29 年 2 月 10 日（金）13：30～（意見交換会 17:30～）

会場：ホテルニューガイアオームタガーデン

(4) 有明広域産業技術振興会会員企業紹介事業及び名刺交換会

有明工業高等専門学校 of 学生及び教職員に向けて、有明広域産業技術振興会会員企業を知ってもらう取組として、振興会会員企業紹介事業を実施した。参加企業は、会員企業 27 社と振興会への加入を検討いただいている企業 2 社に参加いただいた。また、終了後は、会場を移動して、会員企業と本校教職員との名刺交換会を実施した。

参加した学生からは、地元の企業を知ることができ、とても良かった。今後、進路を選択するうえで、参考になったとのアンケート結果が寄せられた。

日時：平成 29 年 2 月 15 日（水）14：00～16：00（名刺交換会 17:30～）

会場：有明高専（合同講義室・多目的室・専攻科講義室）

(5) 有明広域産業技術振興会会員企業 銘板除幕式

有明広域産業技術振興会会員企業の銘板除幕式を実施した。当振興会は、平成 11 年 7 月に本校との連携による活性化を目指し、有明広域地域の企業、商工会議所、商工会および市、

町により設立された。本校は、同振興会からご支援をいただき、産学官連携および地域教育に関する様々な事業を企画・実施することができた。これまでの長きにわたるご支援に対し、感謝の意を表し、銘板を設置したものである。

除幕式では、有明広域産業技術振興会会員企業紹介事業終了後に関わらず、多くの会員企業に参加いただき、盛会に執り行われた。

日時：平成 29 年 2 月 15 日（水）16：15～16：30

会場：有明高専 総合研究棟 1 階ロビー

4. 地場産業振興支援研究事業

地場産業振興を最終目標として、地場企業と高専教職員との連携による研究・開発の促進を目的とする地場産業振興支援研究を継続支援する事業を行った。また、会員企業の技術相談に基づく新規導入装置による測定依頼を支援した。

以下の 3 件を採択助成した。研究成果は総会資料として配布し、振興会総会終了後に発表して頂く予定である。

◎研究課題：金型表面精度の影響が小さい超精密ガラス成形加工技術「スランピング法」に関する研究

研究担当者：(創造工学科) 篠崎烈 准教授

(創造工学科) 坂本武司 講師

(教育研究技術支援センター) 真島吉将 技術専門職員

◎研究課題：パルスパワーによる新しい物質導入システムの商品化に向けた技術移転

研究担当者：(創造工学科) 河野晋 教授

(株式会社美和技研) 土山哲司 代表取締役

(創造工学科) 富永伸明 教授

(教育研究技術支援センター) 山口明美 技術専門職員

◎研究課題：簡易型および動力利用型オリーブ葉取器の開発

研究担当者：(創造工学科) 坪根弘明 准教授

(九州荒尾オリーブ村) 上園満雄 副理事

(教育研究技術支援センター) 石橋大作 技術専門職員

5. 研究開発助成事業の斡旋導入

年度	共同 (件)	受託 (件)	合計 (件)	共同 (千円)	受託 (千円)	合計 (千円)
18	10	6	16	14,940	14,872	29,812
19	13	5	18	23,600	3,195	26,795
20	18	5	23	14,597	4,677	19,274
21	12	5	17	9,250	8,255	17,505
22	6	4	10	3,887	1,850	5,737
23	6	5	11	3,825	3,690	7,515
24	7	6	13	1,260	6,499	7,756
25	11	4	15	3,042	7,283	10,325
26	7	3	10	796	4,684	5,480
27	11	5	16	5,082	4,970	10,052
28	16	6	22	6,365	7,882	14,247

6. 平成28年度予算執行状況

【収入の部】

(単位：円)

区分	決算額	予算額	比較増減
1. 振興会負担金	1,645,640	1,645,640	0
2. 繰越金	0	0	0
3. 雑収入	1	0	1
合 計	1,645,641	1,645,640	1

【支出の部】

(単位：円)

区分	決算額	予算額	比較増減
1. 地場産業振興支援研究費	300,000	300,000	0
2. 分科会支援金	39,312	100,000	▲60,688
3. オープンカレッジ	131,182	150,000	▲18,818
4. 会議費	10,800	20,000	▲9,200
5. サテライトオフィス事業	0	200,000	▲200,000
6. 事業費	471,834	500,000	▲28,166
7. 予備費	0	375,640	▲375,640
合 計	953,128	1,645,640	▲692,512

【収支】

(単位：円)

平成 28 年度収支残額	収入合計	支出合計	収支残額
	1,645,641	953,128	692,513